

GLOBAL nutrition GROUP

HOT NEWS OF JAPANESE NUTRITION/HEALTH INDUSTRY

Nov.16-30, 2008

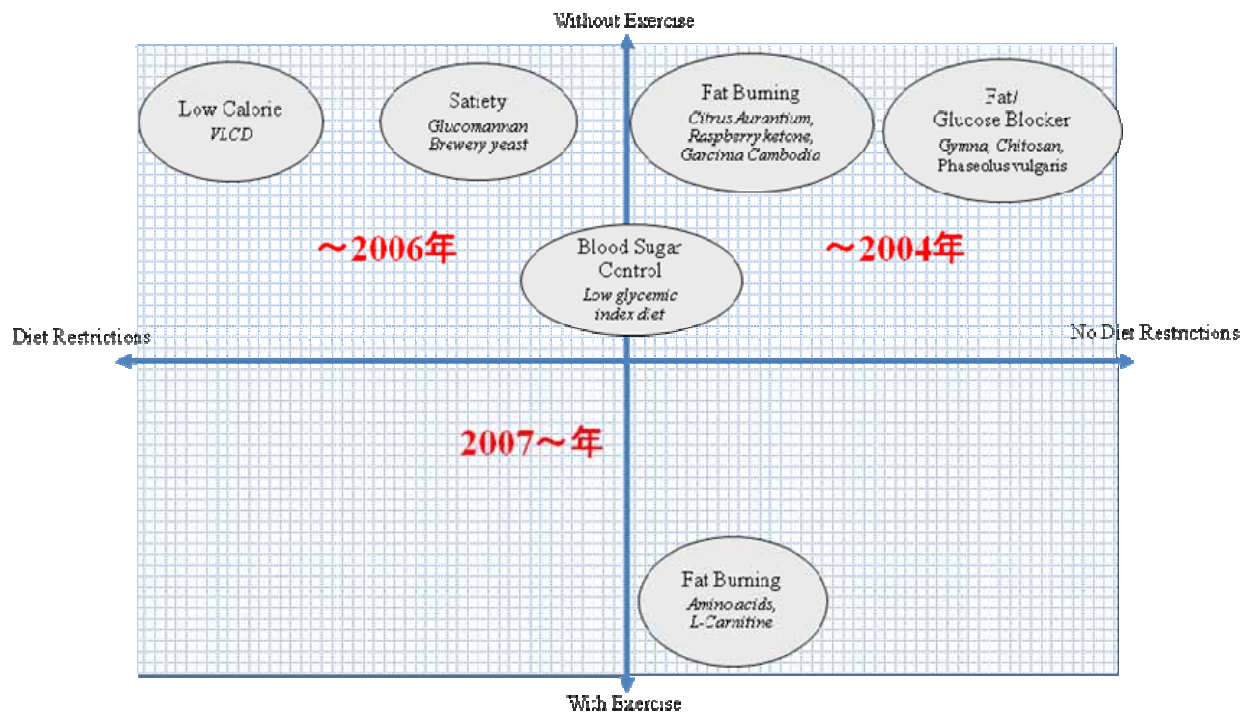
11月26日付け日経MJ紙に『40代以上、高まる節食意識 - 健康調査、メタボ関心薄れる』という興味深い記事が掲載されていた。日本能率協会総合研究所が実施した『健康ニーズ基本調査2008』の調査結果について解説されていた。

ポイントは

- メタボリックシンドロームという言葉のパワーは07年をピークに失速気味
- 男性の食の見直し傾向は、野菜へのニーズや節制意識が特に40代以降で顕著に
- 今後も期待される健康機器は「トレーニングできるゲーム機」と「骨密度計」

と整理されていた。

昨今のダイエット食品(サプリメント、食事代替食)市場の動向や、今年に入ってからスポーツニュートリションの好調などの現象から、下記のような仮説を立ててみた。



横軸を「食事制限」の有無、縦軸を「運動の併用」の有無とし、各メカニズムや代表的な素材をプロットしてみた。2004年頃まではダイエットサプリメントが、2006年頃までは食事代替型が、2007年以降では運動関連の商品が成功している事をうまく説明できそうである。勿論、年齢や性差によって分布は異なるが、大きなトレンドを現わせそうである。

米国では、スポーツニュートリションは大きな市場となっているが、日本のスポーツニュートリション市場にも大きなチャンスが到来したようである。

NEW PRODUCTS

アサヒ飲料、ビタミン飲料「アサヒ ゆず&ビタミンC PET500ml」を新発売

アサヒ飲料株式会社は、健康イメージの高いゆず果汁、ハチミツを使用したビタミン飲料「アサヒ ゆず&ビタミンC PET500ml」を12月16日より全国で新発売する。同製品は、寒い時期において健康イメージが高く、嗜好的にもマッチする味わいのゆず果汁とハチミツを使用し、さらにビタミンCを1,000mg配合した、さわやかな味わいのビタミン飲料となっている。果実由来の「ゆずポリフェノール」も配合し、冬の健康的な生活をサポートする。カロリーも、100mlあたり18kcalという、カラダにうれしいカロリーオフ設計の飲料だ。

(2008年11月20日 アサヒ飲料株式会社 ニュースリリース)



テルモ、医療機関向けBCAA粉末食品「アミノフィール」を発売

テルモ株式会社は、11月28日よりBCAA(分岐鎖アミノ酸)を含有する食品「アミノフィール」を全国の医療機関向けに発売する。BCAA(分岐鎖アミノ酸)は、体を構成する主要なたんぱく質の成分で、肝臓でのたんぱく質の合成に利用される。「アミノフィール」は、たんぱく質の吸収・代謝バランスに配慮が必要な方や、BCAAを積極的に摂りたい方向けの製品だ。さわやかなオレンジ風味の顆粒タイプで、1包あたりBCAA 3200mgと共にビタミン、ミネラルを配合している。水またはぬるま湯に混ぜて、簡単にBCAAの摂取が可能。

(2008年11月27日 テルモ株式会社 プレスリリース)



伊藤園、特定保健用食品の緑茶飲料「緑茶習慣」をリニューアル発売

株式会社伊藤園は、食後の血糖値が気になりはじめた方を対象にした緑茶飲料として厚生労働省より表示許可を得た特定保健用食品の「緑茶習慣」を、12月1日(月)にリニューアル発売する。「緑茶習慣」は、同社が2002年に発売した特定保健用食品の緑茶飲料で、食物繊維(難消化性デキストリン)を含んでおり、糖の吸収をおだやかにするので、食後の血糖値が気になりはじめた方の食生活の改善に効果的だ。また、同社の茶系飲料のノウハウを活かし、原料茶葉を厳選することで、どんな食事にも合うような味わいに仕上げている。今回、この「緑茶習慣」のさらなる活性化を図るため、パッケージデザインを変更するのに加え、新型容器を投入しリニューアル発売する。

(2008年11月26日 株式会社伊藤園 ニュースリリース)



伊藤園、特定保健用食品「引き締った味 カテキン緑茶」ホットペットボトルを発売

株式会社伊藤園は、コレステロールの吸収を抑制する茶カテキンの働きにより、血清コレステロールを低下させる特定保健用食品の茶系飲料「引き締った味 カテキン緑茶」のホットペットボトルを11月24日より販売する。茶系飲料を得意とする伊藤園が、どんな食事にもあう味わいに仕上げた、無理なく継続して飲むことが可能な緑茶飲料を、寒さが本格化するこれからの時期、あたたかいペットボトルでも提案する。今回、この「引き締った味 カテキン緑茶」をホットペットボトルでも販売し、さらに幅広い飲用シーンへの対応を目指す。ホット対応のペットボトルを採用し、飲料中の酸素を低減させる「脱酸素製法」を強化することで、加温時の品質保持性も実現している。



(2008年11月20日 株式会社伊藤園 ニュースリリース)

アサヒ飲料、カフェイン配合の「ドデカミンBLACK2.0 PET500ml」を発売

アサヒ飲料株式会社は、健康炭酸飲料『アサヒ ドデカミンBLACK2.0 PET500ml』を12月9日より全国で新発売する。2004年の発売以来、『アサヒ ドデカミン』は「ビッグなサイズ of 健康炭酸」をコンセプトとし、20～30代の社会人男性を中心に幅広くご好評を得ている。また、2007年4月には、アミノ酸とビタミンを強化し、『アサヒ ドデカミンスーパー』としてパワーアップした。さらに、2007年12月には、「ドデカミン」の新しい提案として、ガラナ特有の色合いとクセになる味わいが特長の『アサヒ ドデカミンブラック』を発売。今般、昨年12月に発売し、好評を博した『アサヒ ドデカミンブラック』に新たにカフェインを加え、『アサヒ ドデカミンBLACK2.0 PET500ml』として新発売する。『アサヒ ドデカミンBLACK2.0 PET500ml』は、7種類のアミノ酸(アスパラギン酸、リジン、アルギニン、グリシン、バリン、ロイシン、イソロイシン)に加え、活力イメージのあるガラナとマカを配合。これから年末年始に向け、ますます忙しくなる社会人にとってぴったりの健康炭酸飲料である。また、100ml当たり19kcalという、カラダにうれしいカロリーオフ設計となっている。



(2008年11月20日 アサヒ飲料株式会社 ニュースリリース)

COMPANY NEWS

キリンHDとヤクルト、「キリンヤクルトネクストステージ」の事業縮小と運営見直しに合意

キリンホールディングス株式会社および株式会社ヤクルト本社は、2008年11月19日に、両社の合併会社で、健康・機能性食品事業を展開するキリンヤクルトネクストステージ株式会社の事業を整理縮小し、経営基盤をより堅実なものとした上で、2009年6月をめどに、ヤクルトグループが事業運営することで合意した。キリンヤクルトネクストステージ社は、2006年10月に、キリングループとヤクルトグループの持つ力を合わせ、「食と健康」をテーマにした新しい価値を消費者に届けること

を目標として発足し、これまで様々な提案を実施してきた。しかしながら、事業の中心である食事代替食品市場が大幅に縮小し、競争が激化するなど、事業を取り巻く状況は大きく変化した。そんな中、経営基盤をより堅実なものにすると同時に急激な市場の変化にも対応していくために、KYNS社の事業を整理縮小に至った。

(2008年11月19日 キリンホールディングス株式会社・ヤクルト本社 ニュースリリース)

キリンHD、豪CCA社の全株式取得に向け交渉中と発表

キリンホールディングス株式会社の連結子会社であるライオンネイサン社(豪州シドニー市、CEO ロブ・マーレー)は、2008年11月17日、オセアニア最大の飲料会社であるコカコーラ アマティル社(豪州シドニー市、会長 デイビッド・ゴンスキー)の全株式取得および両社の統合に向け、交渉中であることを発表した。交渉が成立した場合、ライオンネイサン社は統合新会社の実質支配基準を満たす、47.5%の株式を取得し、同社を連結することになる。なお交渉は、実施に際してコカコーラアマティル社株主の賛同が必要な「スキーム・オブ・アレンジメント」という手法を採択している。

(2008年11月17日 キリンホールディングス株式会社 ニュースリリース)

SCIENCE NEWS

カゴメ、 β -カロテンやリコピンにアトピー性皮膚炎抑制効果を期待

カゴメ株式会社経営企画本部総合研究所は、広島大学医歯薬学総合研究科の秀道広教授との共同研究で、 β -カロテンやリコピンにアトピー性皮膚炎を抑制できる可能性があることを、動物を用いた試験で確認した。この研究の内容は、第58回日本アレルギー学会秋季学術大会(11月27~29日、東京国際フォーラム)で発表致された。今回の研究結果は、 β -カロテンやリコピンの摂取がアトピー性皮膚炎モデルマウスの角層水分量の低下を抑制し、皮膚の炎症細胞の増加を抑制する効果を示しており、 β -カロテンを多く含むニンジンやリコピンを多く含むトマトの摂取がアトピー性皮膚炎の抑制につながることを期待させる。

(2008年11月27日 カゴメ株式会社 ニュースリリース)

カゴメ、ホウレンソウに血中ホモシステイン低減作用を確認

カゴメ株式会社経営企画本部総合研究所は、静岡大学の杉山公男教授との共同研究で、ホウレンソウに血中ホモシステインを低減させる作用があることを動物試験で確認した。今回の研究成果により、ホウレンソウの摂取による動脈硬化の予防作用が期待できる。この研究の内容は、第13回日本フードファクター学会総会・学術集会において発表された。動脈硬化の発症には様々な因子が関与していると考えられているが、一般的に知られているのは、血中コレステロールの関与である。この研究では、血中コレステロールとは別のメカニズムによって動脈硬化のリスクを高めるといわれている血中ホモシステインに着目し、その結果、ホウレンソウに血中ホモシステインを低減させる作

用があることを確認した。その作用物質は、ホウレンソウに豊富に含まれるベタインであると考えられる。

(2008年11月17日 カゴメ株式会社 ニュースリリース)

カゴメ、リコピンに血中アディポネクチン増加作用を確認

(2008年11月17日 カゴメ株式会社 ニュースリリース)

カゴメ株式会社経営企画本部総合研究所は、北海道大学宮下和夫教授との共同研究で、リコピンに血中アディポネクチンを増加させる作用があることを、動物試験で確認した。今回の研究の成果から、トマトの摂取によるメタボリックシンドロームの予防作用が期待できるということだ。本研究内容は、第13回 日本フードファクター学会総会・学術集会で発表される。現在、脂肪組織は単なるエネルギーの蓄積器官にとどまらず、様々なアディポサイトカインという生理活性タンパク質を分泌し、身体全体に影響を与えていることが分かってきている。内臓脂肪型肥満によって、脂肪細胞が過剰に肥大すると、これらアディポサイトカインの分泌に変化が生じる。善玉のアディポサイトカインといわれるアディポネクチンは減少し、メタボリックシンドロームが進行する原因となるのだ。したがって、アディポネクチンはメタボリックシンドロームの予防に重要な役割を担っていると考えられる。今回の研究でトマトの色素であるリコピンに血中アディポネクチンを増加させる作用が確認された。メタボリックシンドロームは様々な疾病リスクが高まる状態だが、血中アディポネクチンの増加に寄与するリコピンのこの働きは、疾病リスクを低下させるうえで重要だと考えられる。

カゴメ、紫人参にアセチルコリンエステラーゼ活性阻害作用を確認

カゴメ株式会社経営企画本部総合研究所は、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所との共同研究で、紫人参のアセチルコリンエステラーゼ活性阻害作用を確認した。今回の研究成果によって、紫人参のアルツハイマー型認知症の改善が期待できる。この研究の内容は、第13回日本フードファクター学会総会・学術集会において発表された。今回の研究において、紫人参にアルツハイマー型認知症の治療薬と同様のアセチルコリンエステラーゼ活性阻害作用が確認された。この作用をもたらす物質が何かは現時点ではまだ不明だが、紫人参にはアントシアニンという紫色の色素が含まれていることから、この作用はアントシアニンによるものではないかと考えられる。紫人参を摂取することで、アルツハイマー型認知症での脳機能の維持、症状の進行抑制が期待できるところとなる。

(2008年11月17日 カゴメ株式会社 ニュースリリース)